

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104998		
法人名	(株)SHメディカル		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	岡山市南区松浜町7-34		
自己評価作成日	令和1年 12月 6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	令和1年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お元気な利用者様も多く、町内の公民館で行っている体操クラブに参加させてもらうようになって、地域の方との交流の機会が増えている。運営推進会議や施設での行事に、町内会長をはじめ地域の方も参加してくださり、顔なじみの関係ができています。消防避難訓練でも積極的に参加し、意見を下さるので、いざというときにとても心強い。
サービスについては、利用者様の状態の変化に応じて、職員間ではもちろん、御家族様とも何度も話し合いを重ね、希望や思いを尊重しながら最善の対応をしている。最期まで「その人らしく」を尊重した支援を行って、御家族様が少しでも後悔のないように支援している。また、御家族様の協力も多く得ることができており、様々な場面で利用者様と共に支える事ができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームかえでが、松浜町の民家が立ち並ぶ一角にはまり込んだように立ち上げて、早16年目になると言う。その間、周囲の空気に徐々に馴染んできたが、その為の職員の努力は並大抵のことではなかったと思う。かえでは常にチャレンジ精神で色々な困難を乗り越えてきた。今は一人ひとりの利用者とその家族の思いにその都度真剣に向き合い、身を削る思いで対応している。今までも多くの家族から感謝され、職員も厳しい現実の中にも喜びを感じていると聞いた。管理者等責任者は、職員不足や就業環境も配慮して、今働き方改革も視野に入れたチャレンジを進めている。それは「職員が両ユニットの業務を兼務する」という方策であるようだ。これにはメリットも考えられるが、「かえで魂」で挑戦してみたい。「グループホーム」のあり方も時代と共に変化している。今後の「新生・かえで」を期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の能力を活かした、温かいケア」の理念を共有し、個別支援を実践している	掲げられた理念には「個々の能力を活かした」とあるが、これに加えて「利用者及び家族の思いや希望に添う」支援が現場では強く感じられる。理念の共有や実践は、日常の色々な場面や、利用者の重度化やターミナルケアの真っ最中に数多く見受けられ、本人・家族によっては有り難い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が日常的にあり、事業所のことでも地域の中で周知されてきている	町内からの声かけで松浜町公民館で毎水曜日に実施している「ももたろう体操」に利用者数人と職員が参加し、良い交流となっている。また、近所の方々がお花を持ってきてくれたり声をかけてくれる等、ホームの住人もこの地にしっかりと根付いてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内老人会主催の体操クラブに毎週参加したり、公民館での催し会に参加したりして、認知症の人の理解を深めてもらえるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回の会議のうち、消防訓練や餅つき大会などのイベント時に設定している回もあり、利用者や行っているサービスについて、近くで見て感じたことなど意見をもらい、サービスに活かしている	松浜町・並木町の両役員・地域包括職員・半数近くの家族の参加を得て有意義な会を実施している。参加者からの発言も多く、ありのままの記録はホームの運営やケアのあり方に関わる事例も多く、今後も期待出来る。	他のホームと異なるかえで独自の運営推進会議は、近年益々充実した会議になっている。記録も綿密でとても分かりやすい。次のステップとしては、「全家族に、何をどの様な方法で理解してもらい、参加出来ない家族の意見もいただけるか」だろうと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が、施設の運営推進会議に参加してくれており、実情やケアサービスについて伝え、意見や提案を頂くこともある	最近是个々の利用者の問題で市の担当者に相談しなければならない事例が少なくなっているが、運営推進会議への地域包括の方の参加が多くなり、定期的に情報交換や指導が得られる状況になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の勉強会を行っており、全職員が身体拘束をしないケアについて正しく理解できるようにしている。玄関の施錠について、家族から意見を頂いており、対応について検討しているところである	身体拘束禁止については指導が厳しくなる以前から取り組んできたが、今はスピーチロック対策他視野も広げて学習している。玄関の施錠についても運営推進会議等で、参加者が色々な意見を出し合っている記録が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の勉強会を行っており、全職員が虐待について学ぶ機会を設けている。日々のケアの中で虐待が見過ごされないように、互いに注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	岡山市主催の研修会に参加して、施設での話し合いの場で職員が学ぶ機会を設けている。 必要に応じて制度を活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際は、十分に説明を行い、不安や疑問点が残らないように、一つ一つ納得をしていただけるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族へアンケートを実施し、その内容と行った対策等を、家族会と文書にて報告し、運営に反映させている	ホームでの日常生活の状況を「かえでの風」通信で家族に送っている。面会時家族とはよく話し合い意向や意見を聞いたり、アンケート・その他の方法で、個々のケアやホームの運営につなぐようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談を行ったり、毎月の話し合い等で意見や提案を聞けるようにしている	一人ひとりの職員の希望や悩みを受け取る為の手法を工夫してホームの運営や個人的な問題にも関わられるようにしている。日常的に気軽に話し合える雰囲気がある。また部長や管理者が個人的な面談をして職員の思いを聞くチャンスもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力していること等を自己申告と、管理者の意見によって評価している それぞれに役割を持てるように、またそれがやりがいへとつながるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や実践リーダー研修等、受講が可能な職員には積極的に受けられるように、法人でも受講の支援を行って、その機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「改善コンクール」への取り組みによって、同業者と交流する機会があり、情報交換など、サービスの質を向上させていく取り組みを毎年行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の人生史や生活歴などを聞き取り、支援内容に取り入れている。また、いつも笑顔で接して、顔なじみの関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族へ要望聞き取り書を渡して、家族の不安なことや要望を聞き取り、サービスに反映させるなどして、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する段階で、本人と家族等が、どのような生活をしたいか、その為に必要な事は何かを見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、出来ることを見極め、個々に活躍出来る場を提供するなどして、介護される一方の立場におかない関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆と関係が継続出来るように、家族の支援の重要性を伝え共に本人を支え、訪問しやすい環境づくりにも努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していた美容院やスーパー等に行って馴染みの人や場所との関係が継続出来るように、支援に努めている	家族に恵まれている利用者が多く、全体的に馴染みの関係がよく継続出来ている。中には入所以来定期的に元同僚3人組の訪問が継続されている例もあり、面会時の様子は本人の目がキラキラとしてとても楽しそうに会話が弾んでいるようだ。また、利用者と職員の顔馴染みの関係もGHの売りの一つと職員から聞いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、利用者同士が関わり合えるような取り組みを提供したり、職員が間に入って、コミュニケーションが摂れるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方のご家族が、施設の行事に参加してくださったり、ボランティアとして訪問してくださる関係がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者向けアンケートを実施し、一人ひとりの思いや希望を把握し、実践している。困難な場合にはご家族から意向を聞いて沿えるようにしている	日々の暮らし方への意向はもちろんの事、終末期や延命に関しても利用者の思い・意向を引き出し本人の言葉をそのまま記録に残しておこうと取り組んでいる。何気ない本人のつぶやきをプランにつなげた事もあるし、魚が嫌いな人に対しては、家族に口に合うものを持って来てもらう事もあるようだ。	本人アンケートを実施して思いや意向の把握をしているが、働き方改革への挑戦として職員が対応する利用者の数や新しい利用者も増えたので、今後に向けてケアプランに繋がるような問いかけやその人に合った言葉かけの工夫をしてみるのも良い。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に「生活史シート」「暮らしの情報」をご家族に記入していただき、これまでの生活歴を把握した上でコミュニケーションをとり、支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースを大切に、横になる方、ホールで過ごす方それぞれ自由に過ごしていただいている。個別に応じた能力によって出来ることを提供している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	デイリーモニタリングを行い、毎日評価をし月末には職員全員の意見をもとにカンファレンスをおこない介護計画の見直しをおこなっている	本人の意向はもとより、家族にも本人の趣味や得意、人柄、生活歴等を聞いたり、元気だった頃のエピソードを聞く等、一人ひとりの人生の背景をよく把握し、その人らしく暮らしてもらう為のプランを職員間で話し合って作成している。その取り組みは種々の記録からも確認出来た。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の言葉をそのまま記録に残し、思いや気づきを職員間で共有している。その気づきをもとにカンファレンスをおこなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、その時々生まれるニーズに対応して、可能な限り柔軟な支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の催し物に参加させてもらったり、施設での行事にも来ていただき暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば、入居前に受診されていたかかりつけ医に継続して受診している。また主治医とかかりつけ医との連携もとれている	月2回の訪問診療時には、母体病院の医師、薬剤師、看護師、ホームの看護職員が同席し、チームで健康管理を行っている。また、希望する人には訪問歯科医による検診、歯科衛生士による口腔ケア、訪問診療マッサージ等を定期的に行っているため、医療と介護の連携がしっかり出来ていて安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気付きや変化も職場内の看護師に報告・相談している。異常時には、訪問看護師とも24時間連携しているので指示を仰ぐことができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際も面会に行き、状態把握に努めている。早期に退院できるよう病院関係者とも情報交換し、日頃から関係づくりもできている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で重度化した時の意向を確認している。また状態変化があればご家族と何度も話し合い、施設で出来ること、方針を共有し統一したケアをおこなっている。	毎年のように看取りを頑張ってきた職員は、ターミナルの人には命をつなぐ高カロリー食を提供する等、最後まで口から食べられる努力をしてきた。何度も危機を乗り越えてきたAさんは職員の手厚い介護により102歳で大往生を遂げたと聞いた。その他にも数々の人生ドラマに立ち会ってきたホームである。	これまで数多くの人を見送ってきた職員達であるが、毎回その都度、職員各自が看取りの振り返りシートに記入して思いを共有し、次へのステップアップにつなげている。経験の浅い職員もこの貴重な機会を今後のケアに活かして下さい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会を中心にAEDの講習、事故発生時の対応など研修会を定期的におこなっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の方、地域の方と一緒に訓練をおこない協力体制を築いている	1階にAEDが設置してあり、いつでもすぐ使用出来るように定期的に訓練をしている。今年は初めてのパターンとして外のゴミ箱が火元という設定をして避難訓練をしたが、今後は水害に対する避難訓練もしていく予定と聞いている。	日中・夜間帯等、日頃から緊急時の対応を訓練し、内容は毎回設定を変えて取り組んでいるが、想定外も起こりうるのので今後も地震・津波等あらゆる設定で訓練に取り組んで下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や生活歴を把握し、尊重しながら言葉かけや対応をしている。また虐待の勉強会で「スピーチロック」について学び	暮らし方や過ごし方に自分なりの固執のある人には、思いを尊重して寛げるプライベート空間を支援したり、自由にマイペースで過ごしてもらっている。また、羞恥心、プライバシー、接遇等にも一人ひとりに合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で、本人が希望を言ったり、自己決定出来るような声掛けなどの工夫をしたりして支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分を把握し、その日の過ごし方を希望にそって支援しつつ、必要なサービスを無理強いするのではなく、提案している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望にそって、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの能力を活かして、食事の準備や盛りつけ、配膳などを一緒に行うことで、食事が楽しみなものとなるように支援している	今日の昼食のメニューの天ぶらを揚げるいい香りがリビング全体に漂っている。エブロン姿のBさんも職員と一緒にお手伝い。ムース食の人もいるが、利用者・職員皆でテーブルを囲み、「美味しかったあ」と普段少食の人も完食。そんな日常の食事風景を見ることが出来た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態の変化に応じて、食事量や水分量の見直しをしたり、栄養補助食品の導入も行っている 家族の協力のもと、本人が好みの物を持ってきていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科衛生士の技術指導を受け、状態に応じた正しい口腔ケアの方法を、全ての職員が行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄支援を行っている 定期的に排泄支援のタイミングを見直したり、おしめの使用について話し合いを行っている	居室にトイレが設置されており、排泄が自立で布パンツで過ごしている人もいるが、紙おむつ、リハビリパンツ、パット併用の人、バルーン装着の人等、一人ひとりの状態によりその人に合った排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしっかりといただくように支援したり、運動への働きかけを行ったりしているが、それでも便秘傾向にある場合は主治医に相談して対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数や曜日は基本的に決めているが、本人から要望があった場合は、入浴することも中止することも柔軟に対応できるようにしている	重度化が進み、浴槽に浸かれる人が少なくなっているが、半数以上の人はマンツーマンでゆっくり入浴出来ており、シャワー浴の人や看護師と職員の間介助で清拭をしている人もいる。拒否のある人は家族の協力を得たり、本人の思いを尊重しながら声かけ等の工夫をして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活のためにも、日中休息する時間をとったり、室内の環境づくりにも配慮して支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬に変更が合った場合にも、症状の変化に注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やりを日課にしたり、洗濯物を干したり畳んだりすることを役割としたり、一人一人の能力を活かして活躍できる場を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で、買い物や美容院等へ出かけたという要望があった場合は、可能な限り希望に沿えるように努めている。 また、家族や地域の人々の協力を得ながら外出を楽しめるように支援している	毎年恒例の一日旅行では瀬戸内マリンホテルに家族も参加して出かけた。事前予約でミキサー、ペースト食にも対応してもらえるので、皆で楽しむことが出来たと聞いた。「外出しよう」を目標に掲げており、新規入所の人が増えたので、本人が行きたい所へ行けるような企画に取り組んでいこうとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を所持したり、必要なときだけ本人に所持してもらったりなど、個人の希望や力に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族へ電話等の要望があった場合、その都度支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を食堂に飾ったり、膝掛けを用意して個々に温度調節出来るようにするなど、居心地よく過ごせるように工夫している	広いリビングに和室コーナー、テーブル、ソファ等が適度に配置してあり、自分の好きな場所でゆっくり落ち着いて過ごせる環境になっている。仲良し同士でおしゃべりが弾んでいる人達、ジグソーパズルや塗り絵に熱心に取り組んでいる人等、それぞれ思い思いに過ごしており清潔で明るい共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、食堂以外にも過ごせる場所を作っており、思い思いの過ごし方が出来るように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みのを持ち込んでいただき、少しでも自宅での生活のような居心地のよい環境で過ごせるように努めている	どの部屋を拝見しても、自分で思うように整理整頓したり、家族がレイアウトする等、個性豊かで、家族の愛情や絆がいっぱい感じられ、居心地の良い居室が多い。入り口のネームプレートも書ける人には自分で書いてもらっており、持っている能力を活かした取り組みをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「できること」「わかること」「やりたいこと」を活かして、安全かつ過剰な援助にならないように、少しでも自立した生活が送れるように支援している		